

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた 1ユニット		
所在地	赤磐市 殿谷 32-1		
自己評価作成日	平成30年 6 月 8 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念『いつも わたしたちが そばにいます』1人1人のその瞬間の距離感も寄り添いの1つだと考えています。心からの寄り添いの大切さを実感し、必要な事を見極め粘り強くチームワークで支援します。
『笑顔と会話を大切に』看取りをさせて頂くことで、日常の瞬間瞬間から生まれた思いもかけない言葉や仕草、笑顔がいかに貴重か知ることが出来ている。又、反対に今悩む事態も後に職員間で懐かしく話し合える事と体験したからこそ、全員で真剣に考え取り組む事が出来ている。記録も写真もその方の生活全てが宝物になるよう大切に残しています。
『理解を深める』利用者の方にも行事の一員として参加して頂く事で、認知症について 地域の人、地域以外の人にも正しい理解が得られるよう支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JizyosyoCd=3372200927-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成30年6月18日

今から4年前にGHひなたが十周年記念に「十年の歩みを年表にしよう」というプロジェクトにチャレンジして、このホームの家族になってくれた90人程の方々の写真とエピソードを、ある部屋一杯に張り巡らした。今は102人にもなり、いとおしく懐かしい一人ひとりが、私にまで何か語りかけてくれるようだ。心が通い、深い絆で結ばれた家族とも言えるこの方達は、この部屋でこれからも生き続けるだろう。しかし開設以来順風満帆に今日までここに至った訳ではない。最近の事だけでも、利用者の心身の重度化の波が押し寄せ、一気に看取り状態となったり、若年性の人や精神的障害を併せ持つ人との対応に四苦八苦している。その中で、2人の管理者と職員の意欲と粘り強さに頼もしさを感じて、明るい将来が見えてくる。グループホームという施設の本当の良さをたっぶり見せてくれた一日となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもそばにいます」の理念を自然に行えるよう、一緒に笑って過ごしたいと心がけている。そして、日々変わる状況に、今、どの程度理念と介護が実践できているか願っている。	ホームが掲げている「笑いと楽しみのある普通の生活・ゆっくりとしたリズム・自然との触れ合い・出来る事はしてもらう・地域とのつながり」等、職員はよく共有し、細やかな配慮をしながら一人ひとりの利用者と相対している。	ホームが一番大切にしている理念は「いつもそばに」と推察しているが、その距離感やタイミングは実に難しい。今後も引き続いて「どうするのが正解だったのか」ディスカッションをしたり、状況によっては家族にも相談をかけてみるのも良いのではないかと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り・幼稚園の運動会への参加等、地域の年中行事、近所の方の畑の収穫物を頂く、収穫への参加、裏の畑を通じて、地域と繋がることが出来ていると思う。又、「さんさんカフェ」に利用者もスタッフの1人として参加して交流を深めている。	ホームと近隣の方々との交流は「地域密着型のグループホームならではの意義から、出来る限りその地域とつながりながら暮らしただけの支援を」といった思いから、職員は色々な行事への参加や計画を考えている。	利用者が、地域の行事や幼稚園その他の生活の中に参加する事自体が「認知症理解に貢献している事がよく解かった」という話を聞いた。認知症当事者が今後こういった観点から地域社会に可能な限り出て欲しいと願っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の受入、中学生の夏ボラの受入等で、地域の認知症理解者が増える貢献をしている。さんさんカフェに利用者もスタッフの一人として参加する事で、認知症でも出来る事が多くある事を伝え協力者を増やせていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて家族・地域の方々から頂いた意見を会議録やすぐに共有したい事は口頭でと、職員間で共有・検討し、日々の介護に活かされている事は多々ある。地域の方から英国庭園等、地域行事の予定も教えてもらおうと地域の方から利用者に交流の場を提供して頂けているようで嬉しい。	運営推進会議の定期的な実施・家族の代表や地域住民・地域包括その他多くの参加・事故やヒヤリハット等のリスク面も含めた報告・その他ホームの運営やサービスにつながる意見交換も多く記録されている会議を続けている。	会議録は綿密で参加者からの意見や情報にもしっかり耳を傾け、サービスや運営につないでいる例が多く見られる。運営推進会議の、本来あるべき姿と思うので、この会議での成果をしっかりと評価して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括とは運営推進会議での意見交換、認知症サポーターの受入で、言葉と実際に見てもらおう、の双方で実情を伝え関係構築が出来ているように思う。市役所とも、介護保険改正による不明点、他喀痰吸引の研修の事等、不明な点は気軽に相談できる関係が出来ているように思う。	運営推進会議には必ず地域包括の職員が参加して、必要な情報提供やホームの運営やサービスに関してアドバイスをしてもらっている。市との情報交換やホームへの指導もいただけると聞いているが、今後の連携強化を期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は見守り不足の時間帯と緊急を要する時のみとしている。ベッド上の利用者に危険が伴う時は緊急で2点柵をするが、ホールの状態が落ち着き次第速やかに柵を外し、記録している。定期的な2点柵をする前に、離床・臥床・トイレ誘導の時間帯の再検討をする等して、柵の設置はなるべく行わないよう日々工夫している。	虐待防止及び身体拘束をしないケアについては、昨年より特に重点を置いて新たな資料も作り研修を重ねている。職員が重視している点は「法律を遵守する事も大切だが、その人にとって何が今必要なのか？を検討する事」として対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の冊子をいつでも読めるようにし、職員トイレにはポスターを貼り、自身の言動を振り返るようにしている。就職時のオリエンテーションで具体的な例をあげながら虐待防止について意識してもらおう。日々の介助でも身体拘束に該当しないか気になる事はすぐに管理者に相談してきてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学び、職員間でも周知している。現在この制度を利用者はいないが必要時には、支援できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかりと時間をとり十分に説明を行い、理解・納得を得ている。契約から数日後も改めてその後不安や疑問がないかこちらから声をかけるようにしている。改定時には書類を作成し連絡し口頭でも説明させてもらっている。又、作成した書面を残すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年1回の親睦会に家族に参加して頂き、そこでの意見を速やかに反映している。2年に1回の外部評価で頂いた意見も大切にしている。又、日頃の様子を見て頂く中での意見も大切にす為、面会時は家族さんと少しでも話し、言いにくい場合を考慮して面会シートに意見を書き込む項目を設けている。	家族がホーム側に対して思う事を十分伝えにくい事を職員はよく承知して色々な工夫をしている。中でも従来の「面会シート」を改善して「気になる事等書き込む項目」を設定してその成果が見られている事はとても良い。	改善された面会シートをさらに工夫を加えれば、より良いものになるだろう。ある一室に並べられた「十年年表」も読み返してみれば利用者・家族の声が蘇ってくる気がする。色々な角度から思いを拾い、本人・家族の思いを反映していきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、ミーティングで出た意見をすぐに反映されており、必要に応じて代表者にも確認後実践する流れが出来ている。又、日々の介助・介護中に発する疑問点もその場で解決したり意見として反映されている。	年に2回それぞれ自分の業務やケアの有り方等、振り返るチャンスを作り、管理者と話し合い、状況によっては代表者につないでいる。例えば夜勤の勤務の有り方や業務の軽減等についても職員の意見を反映させている。職員が少し休憩出来る空間も配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調・家庭状況を考慮し柔軟な勤務体制を作っている。又、代表者もその体制を把握し、理解してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	率先して研修参加を希望する職員に勤務体制を配慮し参加出来るよう努めている。職員全員が研修に参加出来るよう、個々に合った内容を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリア形成訪問事業への参加。ケアカフェや認知症カフェへの参加を通じて、同業者と意見交換し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書から状態把握、マンツーマンで寄り添い、言葉だけでなく仕草・表情から気持ちを汲み取る。知り得たことはどんなことでも、すぐに他職員と共有し周知している。言葉だけでなく歌と一緒に口ずさむ事で安心して頂ける事もあり、関係作りには多くの方法がある事を身をもって体験している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は特に小まめに、面会時だけでなく電話等で日々の状態報告を行い、家族の疑問・不安・思いを具体的に聞き出せるよう努めている。又、面会シートに記入欄を設け、口頭で伝えにくい時も思いを引き出せるように工夫。悪い状態を伝える時は良い状態も一緒に伝えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み・事前面談等で事前に得た情報と、入居後に実際に見て聞いた本人・家族の思いを比較しながら、職員間で密に報告し合っている。内容によっては本人に直接尋ねてみて、優先順位を考えながらニーズを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行う中で、感謝の言葉だけでなく、利用者から教えて貰った事で職員自身初めて知れた事を直ぐに言葉に出す等、尊敬の念を伝えるようにしている。入居者からの感謝の言葉、優しい言葉に元気をもらっている。又、職員は、入居者同士の関わりを見て、傾聴・声かけの方法を学ぶことが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の様子を伝えながら、こちらから些細な事でも相談する等、密に家族とコミュニケーションをとることで、どんな情報でも介護に反映する事が出来ると伝えるよう努めている。運営推進会議で頂いた意見をすぐに介助に繋げている事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、話しやすい様、時には職員が間に入り、その時の利用者の状態に応じて談笑して頂く場所も考慮し、雰囲気作りに努めている。面会後は一緒に玄関や駐車場まで見送りに行く。利用者によっては職員は少し離れた位置から見守り、本人1人で見送ってもらっている。	家族との団欒の時間を持ったり、古からの友人や知り合いの面会時には談笑して過ごす人もいて、日頃から面会者は多い。面会に来た折に夫婦でよく外出している人は二人の馴染みの場所へ行っているようだ。それぞれの馴染みの関係を職員は温かく見守りつつ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の他者介助はむやみに止めるのではなく、危険が無いよう見守る。不安が強い言動が始まった利用者がある時は不安が広がらない様他者の傍に寄り添い、不安な言動が続く方には一定時間思いのまま過ぎて頂くと、利用者同士が声を掛け合って事態が良い方に終息する事を最近、身をもって体験している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りにより退去した方の娘さんの定期的な来訪有り。母との思い出がひなたに来たら楽しいものとなるという想いを受け止める。また、遠慮なくいつでも来て頂けるような声かけを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出来る方には思いを伝え易いような雰囲気作りに努めているが、日頃の何気ない言動や表情、会話の中の単語1つ1つから、こちらが汲み取れるように常に努めている。最近では利用者同士の会話で出る本音がヒントになる事も多い。	以前に比べ言葉で思いを伝えられる人が増えてきたので、利用者の発言をしっかりと記録に残し職員間で共有している。思いや意向を「察する方法」を模索しているが、時には利用者間で行き交う言葉に職員の方が気づかされ大いに勉強になる事もあると聞いた。	若年性のAさんは近くの英国庭園の芝の草抜きが仕事であり、自分の役割、生きがいになっていたようだ。満足感と高揚感を感じてもらえるような生活支援に取り組んでいる事は素晴らしい。これからも出来る事はしっかりと支援してあげて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から家族や利用サービス先から情報をもらう際趣味や好きな物等まで尋ねるようにしている。その後は、本人との会話、面会に来た友人・近所の方から教えてもらう。知り得た事は、すぐに職員間で周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化する心身の状態を、すぐに出勤者同士で口頭で申し送りやカードックスを活用し周知する。状態だけでなくこちらのどのような対応にどのような反応があったかまで記録し、後の経過把握にも繋げている。目で見て分かる事であれば、当日勤務者間で実際に視認し、経過観察出来るよう写真に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・訪看・Dr.の意見も取り入れ、介護計画を作成している。家族からも面会時に思いを吐き出してもらい反映している。特に初期、看取り期は課題の優先順位を意識して作成している。職員はミーティングの時だけでなく、日々の介護の中で気づいた点をすぐに管理者や計画作成担当者に伝えてくれている。	会話や関わりの中から知り得た事は記録し、本人の思いや意向を知ろうと努め、職員間で話し合ってニーズに適ったプランを作成している。それぞれのケアプランや介護記録等を職員が一目瞭然に情報共有し易いように、カードインデックスを活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う言動、言動同じでも時間帯に変化があった際、介護記録に記入。出勤者間で口頭でも伝達し周知している。その情報から食・水分の提供方法、量を変更、声の掛け方を工夫。少しでも負担軽減できる方法を提案し合い速やかに実践するよう努めている。必要に応じて記録の記入方法を変更することもあり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身の状態に合わせ食事形態・水分提供や入浴・排便コントロールの方法等と共に、現状から考え得る将来の多機能化についても常に話し合う。訪看に助言を受け、家族・本人の負担を考慮しながら柔軟に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の方や多職種の方から各家庭や地域での出来事等、情報を頂いている。利用者が1人で外に出てしまう事故を想定し、少しでも気になる人を見かけたら電話するとの協体制を作って下さっている。又、花や野菜を収穫出来るよう目安の時期を教えて下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を小まめに家族に伝え、受診の頻度を増やすや病院を変更する必要が出た場合しっかりと家族に説明し理解を得られるよう努めている。緊急の際も訪看を通じて的確な受診対応が出来ている。	従来のかかりつけ医を受診する人もいるが、ホームの協力医を主治医とする人が多い。協力医の定期的な往診や訪問看護もあるので安心であるが、家族が受診に付き添う場合は、日頃の利用者の状態を分かりやすく記録にまとめた物を渡している。医療との連携もよく出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護日に、体調、認知症の症状、精神面で気になる事等、小さな変化も報告・相談させてもらっている。より詳細が伝わるよう写真を残して見てもらう様にしている。電話にて24H相談できる体制になっている。臨時受診が必要な場合も、どの科が該当するか分からない時の相談にものってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供書・過去2ヶ月間の介護記録経過をまとめた物を作成。面会時に不足物はないかこちらからNs.に声を掛けるようにも努めている。退院時は事前訪問し、本人の状態把握に努める。得た情報はカーデックス等で、職員が周知出来る様にしている。又、退院の日程が分かり次第、急変時に備え、訪看に連絡を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から看取りの際の要望を聞かせてもらっている。レベルダウンに繋がるような体調変化があった場合、速やかに家族と電話か面談の場を設け、家族にしっかりと理解して頂く為に今の状態を説明し、希望を聞き出せる様に努めている。又、状況に応じて訪看からも直接家族に話が出来た場を作っている。	ここのところ看取りが続いたが、ゆっくり看取る事が出来た人もいて、「薬に頼らず、入院せず」というホームの指針が実践出来、本来の「ひなた」の看取りが出来て職員も安心したと聞いた。現在もターミナルの人がいるので、家族や医療と連携しながら支援している。継続して取り組んでいるグリーフ・ケアカンファレンス(偲ぶ会)は家族からとても喜ばれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には訪看へ連絡、救急要請の手順は、職員全員周知し、把握できている。救急蘇生法の訓練にも参加している。訓練時には実際に心肺蘇生法やAEDの使い方を体験することで、実践に活かせるよう努めている。急変に至る前のサインにも気付ける様、日々気をつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年2回の避難訓練、年1回の消火技術訓練大会への参加で実際に火を消火する事で、職員全員、避難誘導や消火器の使用方法が身につけている。避難訓練に地域方がいとも参加し、避難者確認名簿への顔写真の提案等 意見を下さるので、より実践的な訓練が出来ている。	近所の人や利用者も参加して、夜間を想定した避難訓練、通報訓練をしたり、初期消火訓練を行っている。訓練の後は、消防署から火災・地震についての講話もあった。感知式ライトがあれば避難時の灯りになり災害時にも役立つという情報もあり、今後の備えに活かしたいと思っている。	地域の人からの意見で作成した「顔写真入りの確認名簿」は消防署からも“非常に良い”との評価があったと聞いた。地域との協力・連携がよく出来ているので、今後も協体制を更に構築して下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語や丁寧な言葉遣いを心掛け、尊敬の念を持って接しながらも、時に方言や友人の様な声かけをして安心出来るひとときを作れるようにも努めている。又、声の高さや時には囁く等も使い分けている。介助でトイレに入る際のドアのノックや居室ドアが開けっ放しではないかにも気をつけている。	トイレと風呂場が直結しているため、失敗時には羞恥心への配慮やプライバシーを保ちながら素早い対応が出来るので安心であり、言葉かけにも自尊心を傷つけないように気をつけている。呼称については家族にも了解を得て、親しみやすい呼び方をする事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の言動・表情をヒントに思いを汲む。又、選択肢を2つに絞り自己決定を促している。時に、本人の視線からも、気になっている物・希望を把握し、先に渡す・勧めてみることで、言葉だけでなく行動でどんな希望や思いも表に出して良いと伝えられるよう努めている。本人が決定した物・事を肯定の言葉で表すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務の中でも、個々のペースを出来る限り優先し、1日の中で、本人の希望の実現・傍に寄り添う時間を少しでも増やせるよう、努めている。又、本人の本当の希望が表せるよう、混乱・不穏になる前の言動を把握し、事前の声かけや寄り添いにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の服選び・入浴後の結髪等でコミュニケーションをとっている。足浴の際の靴下1足でも一緒に選んでいる。爪切は定期的に行っている。今後はいつも使用している車イスも身だしなみの1つと認識し、よりキレイな状態を保てるよう努めていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調に合わせて食事内容・形態に配慮している。嗜好を把握し、近所の方から頂いた野菜等を美味しく食べてもらえよう、調理方法を工夫している。しょうやく・皮むき・軽い調理・洗い物・お膳拭き等、個々にできることを把握し、楽しみながら一緒にしている。	三度の食事やおやつ時間は利用者にとっても楽しみな時間であり、調理や盛り付け等のお手伝いをしてくれる利用者もいて助かるとの事。軽度の人が多いユニットでは、職員手作りの食事をしっかりとよく噛み、味わって食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看取りや寝たきりの方の水分は、目視ではなくカップで計測している。体調不良等で食事が摂取しにくい場合は、ゼリーや栄養補助食品を使用している。水分も、1回分の量を数時間毎に数回に分けて小まめに提供するなどしている。季節に合わせて水分提供量や提供回数を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて、口腔ウェットティッシュ・ハミンググッドも使用。自力で歯磨きが出来た方でも義歯を預かった際に職員が仕上げをしている。口臭予防の為、緑茶でうがいを促す工夫も行っている。自歯の方は残歯の状態も確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム、食事や栄養補助食品に含まれている成分を把握し、その日の体調や内服薬との兼ね合いを考慮して調節している。状況に応じて速やかにDr.やNs.に相談している。トイレに久しく行っていない方にはただ声を掛けるのではなく周りを気にすることなく笑顔で行ける様な声かけの内容となる様努めている。	トイレの外に椅子を置き、手すり代わりに、トイレの順番を待つ時用に等、自立支援も含め、色々な用途に使っている。「立ってするのは気持ちが悪え」と言う男性利用者の為に、男性用便器の使用も有りとの事。個々におしり拭き用タオルを用意して清潔保持にも心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナや乳製品を取り入れ、時には提供量やタイミングも工夫している。腹部マッサージや温タオルを腹部に当てがい横になつてもらう等で腸の動きを促している。又、訪看やDr.に下剤や整腸剤の量、いちじく浣腸や坐薬の使い分けを小まめに相談し、便秘や排便時の負担が軽減する方法をいつも検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の柔軟性は課題。外出・外泊・受診の日程を考慮し、失禁・失便時にはなるべく入浴して頂けるよう努めている。又、マンツーマンで関る事の出来る時間なので不安や不穏が強い時に気分転換に入ってもらい心も温まれる様ゆっくりと対応している。	例え拘縮があっても訪問看護師に相談して入浴方法を具体的に教えてもらい、一般入浴してもらおう等、その人に合わせた色々なパターン入浴方法を実践している。超高齢になると「年だから大儀な」と言う人もいるが、「週3回の入浴を」という家族の要望もあり、時間や職員を変える等の工夫をしながら支援している。	躰の大きな、特に男性利用者の身体介護は負担も大きいだろう。介護用ロボットを購入して入浴支援等に活用していると聞いた。利用者には浴槽にゆっくり入ってもらい、又、職員の介護負担軽減になり、より良いケアの実現の為に、介護ロボットを有効に使うのも良い方法と思う。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は臥床のタイミングをその日毎に判断し、入眠まで添い寝をすることもあり。必要に応じて眠剤も使用。前夜の睡眠状態で午前でも布団を勧めたり、昼食後に午睡を勧めるが、それ以外にも適宜、皆さんに負担の無いよう安心する声かけを心掛けながら休憩を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助前のダブルチェックは継続中。処方箋をいつでも見れるようファイルを作り、いつでも確認できるようにしている。訪看対応を管理者だけでなく職員全員が行う事で薬の把握・理解出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦の力を発揮してもらい家事を手伝って頂く。又、家事の工夫法や畑の知識を教えて頂くこともある。居室で過ごす事が多い方には、自室で好きな音楽を聴いてもらえるようにしている。希望に応じて新聞を持ち込む、おやつとは違う間食の時間を設けることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	主に行事を通してになってしまうが、初詣や運営推進会議で近所の方から頂いた情報で、英国庭園の催し物にあわせて外出している。時に買い物も一緒に行っている。気候のいい時は裏の畑での水やり・収穫、外でお茶をしている。今年の4月、初めて回転寿司に行く事が出来た。	重度の人が多く、皆揃っての外出が難しかったユニットも今年は回転寿司を食べに行ったり、花見に行く事が出来、利用者、職員共に喜んだ。個人の希望に添って自宅への外出、さんさんカフェ、図書館へ行く等の個別支援もしている。徒歩で移動出来る範囲内に英国庭園があるので、日常的な散歩や時にはティータイムを楽しむ等、よく気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の所持を希望する方はいないが、場合によっては、金庫で保管し本人との買い物で金銭の出し入れがあった際は日付・対応した職員の名前・残金を記入している。欲しい物の希望があった時は、利用者の希望次第で買い物代行か一緒に買いに行く事もあり。宝くじを占いの結果で買いに行く事もあり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた荷物や郵便物は本人にそのまま渡し、開封に困った時のみ手伝わせてもらう。本人の気分次第にはなるが、内容は本人が考え職員が代筆し一緒に年賀状の返事を書く。本人から希望があればすぐに電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年から鯉のぼりを更に見易い位置に掛け、季節毎の手作り掲示物をホールの壁全面から一区画にし、子供っぽい雰囲気にはならない様にする新たな取り組みを始めている。近所の方や職員が持参した花を利用者に生けてもらっている。又、時にはTVを消して会話や音楽を楽しむだけの時間を作っている。飾りの他、室温・音・光には特に配慮している。	利用者が活けてくれる花が、玄関やリビングを華やかに彩り、玄関の「皆様の作品」コーナーには壁絵の大作や折り紙、塗り絵等の作品が展示されて季節感に溢れ、リビングの高い天井が開放感と明るさを演出している。席の配置にも過ごしやすい配慮が感じられ、塗り絵に取り組んでいる人達もいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	晴れた日に自ら畳部屋に行った際は、そつと緑茶を出す。利用者が寝たきりの方の居室に訪室した際にゆっくり過ごせるよう、音楽を流す。寝たきりの方が安心する方法を伝えそつと退室する等で距離はおいでも直ぐに傍に寄れる距離を保ち様子が見れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある文机、家族写真、ご主人の遺影を自由に置いてもらい、ある利用者はファンの歌手のポスターを貼っている。	室内は落ち着いた雰囲気になるように、過度な飾り付けをしないように気をつけている。本人の好みに合わせて家族がレイアウトしている居室もあり、第二の我が家になるように、清潔な環境を心がけ居心地良く過ごせる工夫や配慮がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の視線より低い位置には動線上に物を置かないように気をつけているが、イス等高さのある物は手すり代わりとなるようにあえて置く事もある。日めくりカレンダーをホールの真ん中の壁に設置し、壁掛け時計も2ヶ所に設置する。口腔ケアセットを定位置に置く事で自分で手に取れるようにしている。		